

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月18日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872001284		
法人名	東成産業 株式会社		
事業所名	グループホーム いちさと筑波	ユニット名	山吹
所在地	〒300-4224 茨城県つくば市小和田145		
自己評価作成日	平成26年8月19日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月13日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0872001284-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=0872001284-00&amp;PrefCd=08&amp;VersionCd=022</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年10月3日	評価機関 決 済 日	平成27年2月3日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

いちさと筑波は緑が多く恵まれた環境にあり、庭でも季節を感じる事ができます。利用者様とスタッフが家族、仲間という考えのもと、自立支援を行い、個々の思い、レベルを把握し、時には頼りながら楽しみを見つけ、その人らしく生活して頂けるよう努めております。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は幹線道路から10m程脇に入った車の往来が激しい道路に面して立地しているが、田園地帯に囲まれていることや筑波山を眺望できることで、農作物の生育や山の景色の移り変わりを通して、四季を感じながら落ち着いて暮らせる環境となっている。

管理者は事業所の存在と内容を把握してもらえるよう区長や民生委員の方々を窓口、情報などを伝えながら地域住民との関わりを築いている。

管理者は利用者一人ひとりの排泄チェック表を基に、利用者の変化を見計らいながらそれぞれに合った声かけ誘導をすることで、おむつ使用からパット併用のリハビリパンツに変更するなど、排泄の自立に向けた支援を重点としている。

職員は利用者の外出の機会が増えるよう、買い物や親戚の家に出かけることを提案しながら、ドライブを兼ねた外出支援を提供しているほか、全利用者が平等に外出ができるよう「外出表」を作成し、利用者の五感の刺激や気分転換に配慮した外出支援に力を注いでいる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を玄関に掲示し、念頭におきスタッフ一同連携してケアにあたっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を作成し、職員が出勤時に確認ができるよう玄関に掲示しているほか、常時確認ができるよう事務室や応接室にも掲示をしている。 管理者はA4サイズに印刷した理念を全職員に配布して理念を共有しているほか、日常的に理念にそって支援をしているか職員に問いかけながら確認し、実践に結び付けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでの納涼祭などの催しにも地域の方が参加して下さっている。	利用者の誕生会ではボランティアによる歌やギター演奏で祝うほか、年数回書道やぬり絵などのボランティアを受け入れ、日常的に地域の人々と交流している。 年1回利用者が家族等や地域住民との交流を目的とした事業所主催の「納涼祭」を開催し、家族等や地域住民を招待して利用者が交流できるように支援をしている。 「納涼祭」ではボランティアによるバンド演奏の催しがあるほか、利用者や職員の手作り焼きそばやミニたこ焼き、フランクフルト、かき氷などを無料で配り、50人程の参加を得ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用者の身体状況のレベルが低下しており、以前は近所のゴミ拾いなどできたが、現在は難しい状態である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3ヶ月に1回行い、そこで出た意見などを参考にし、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は利用者や家族等の代表、市担当者、区長、民生委員、管理者、職員で3ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の生活の様子や運営状況の報告を行うとともに、課題などを話し合い、委員から出た意見や助言をサービスの質の向上に活かしている。 委員から「地域住民に事業所の存在と催しなどへの参加を得るためにはどのようにしたらよいか」との質問を受けて話し合った結果、管理者は区長や民生委員を窓口としてお願いすることで、地域住民との交流に努める対応をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携  市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当者が訪問したり、電話で連絡をとりあい、疑問点や改善点などを相談し、連携を図っている。	管理者は月1回開催される地域密着型サービス連絡会並びに、運営推進会議で市職員に事業所の空き情報や事業所の取り組みなどを報告するとともに、利用者や家族等からの疑問点や他施設への移居についての相談をするほか、市担当者からは郵送や電話などで研修や制度改正などの知らせがあるなど、日頃から協力体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践  代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中、施錠はせず、外に出たい方はさりげなくスタッフが付き添うように心かけている。夜のみ施錠している。	身体拘束や行動制限を行わないことを契約書に明記するとともに、全職員が身体拘束の内容と弊害を理解し、玄関の施錠を含めて身体拘束をしない支援に取り組んでいる。 管理者や職員は、身体拘束の内容とその弊害を外部研修を通して理解し、申し送りなどで身体拘束をしないケアに向けて話し合っている。 現在ふらつきがある利用者が転倒する危険性があるため、家族等の同意を得てやむを得ず車いすをロックし、利用者が自由に移動できない状態にしているが、「経過観察記録」や「再検討記録」などを作成するまでには至っていない。	やむを得ず身体拘束をする場合には、「同意書」のほかに「経過観察記録」や「再検討記録」を作成して記録に残すことを期待する。
7		○虐待の防止の徹底  管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の勉強会に参加し、日々虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度などの勉強会に参加し、知識や情報などを習得し、成年後見制度を活用している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	直接、家族や利用者本人と面談し、理解、納得を頂いたうえで契約、解約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族にアンケートを出したり、日常からも利用者や家族との会話から意見、要望を聞き、直接申し出があった場合は対応するように努めている。	管理者や職員は利用者との日々の会話から意見や要望を聴いているほか、家族等からは来訪時や年1回の無記名のアンケート、運営推進会議で意見や要望を聴いている。 「部屋の臭いが気になる」との家族等からの意見を受け、管理者と職員で話し合った結果、失禁のある利用者の部屋は小まめに掃除し、汚れ物は部屋に置かないようにするほか、事業所内の清掃は消毒薬を使用するとともに、居室の清掃点検も行うようにしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常から職員個々からも話を聞いたり、カンファレンスなどの意見を出し合い、反映に努めている。	管理者は職員が意見や要望が言い易いよう休憩時間にコミュニケーションを図り、日頃から何でも言い合える関係づくりに努めている。 管理者は申し送り時などに職員から意見や要望を聴いているが、全職員で話し合いができる職員会議を実施するまでには至っていない。 職員から「利用者の外出支援を平等に支援したい」との意見を受け、管理者は「外出表」を作成して利用者の順番を決め、外出支援をするようにしている。	管理者と職員が定期的に話し合いや研修などが行える職員会議を実施することを期待する。
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の事情をくみ取り、各自が目標を持ちながら就業できるように、職場環境、条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修、勉強会に交替で参加している。個々が向上に努める必要性や重要性を話している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	月1回のペースで同業者との連絡会を開き、情報交換、勉強会などを行っている。また、他の事業所に電話し、相談したりアドバイスを頂く事もある。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴や家庭環境などを聞き、利用者の細かな言葉、行動、心の変化を感じとりながら関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴、受容の姿勢で対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホーム内の支援である為、介護保険でのサービス利用はできないが、ご家族との相談で、希望がある方は実費でのサービス利用もできる事を伝えている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の得意な事はスタッフが習い、時にはスタッフが利用者に頼り、関係を築いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常生活の様子を伝え、家族に問題点や本人の相談をし、一緒に支援を考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の友人が気軽に来られるような雰囲気づくりに心かけ、又、行きつけのスーパーなどで買い物ができるように支援している。	職員は利用者との日々の会話や家族等から話を聴き、利用者が築いてきた馴染みの人や場所を把握するように努めている。 利用者の馴染みの友人や親戚が来訪した際には、お茶を出して居心地よく過ごせるように努め、馴染みの人との関係が途切れないように支援をしている。 利用者が馴染みの店で買い物をする場合には職員が同行するほか、墓参りなどを希望した際には家族等の協力を得て支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	キッチン、洗面所などで数人で料理、干し物を手伝って頂き、スタッフが中に入り、関わりあって頂くよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今後も相談を頂ければお力になれる事をお伝えし、相談に対応している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常の会話や行動、またご本人と話あいをし、希望や思いを把握し、スタッフからも情報を得て、その人らしい生活ができるように努めている。又困難な方は以前に伺った思いをスタッフ同士共有し対応している。	管理者と職員は入居時のアセスメントから、利用者の生活歴を把握しているほか、日々の関わりの中で会話や行動を観察しながら、利用者の思いや意向の把握に努めている。 意思疎通が困難な利用者の中には、表情や仕草から判断したり、家族等から情報を得たりしているほか、管理者と職員で話し合って利用者の思いを汲み取るように努めている。 把握した内容は口頭で管理者や職員に伝えているが、記録に残すまでには至っていない。	利用者の思いや意向など把握した内容を個人記録に残し、全職員で共有することが望まれる。
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の生活歴などをこれまでのサービス、担当者や家族などから聞き、スタッフ全員で把握できるように情報の共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子を観察し、申し送り、記録し細かな気づきもスタッフ同士共有し申し伝え把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、スタッフを交え話あい、又主治医の意見を加え、本人の希望にそい、計画作成者が原本を作っている。	介護計画は利用者や家族等の意見や要望、医師や利用者の担当職員などの意見を基に計画作成担当者が作成し、3ヶ月毎にモニタリングを行い、3ヶ月から6ヶ月で見直しをしている。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、その都度現状に即した介護計画に見直しをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、介護記録を記入し、医師往診時、個人特変時などは別に申し送りのファイルに記入し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、プール、買い物その他、随時対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの協力を得て、日々の生活を楽しめるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、主治医を決めている。必要時は医師からの電話での指示や受診介助を行っている。	契約時に利用者や家族等に希望するかかりつけ医への受診が可能なことや、協力医療機関の医師をかかりつけ医にできることを説明している。 かかりつけ医への受診は家族等の付き添いを基本とし、受診時に利用者の状態などを家族等に伝えている。 協力医療機関の医師の受診は職員が支援するほか、週1回協力医療機関の医師による訪問診療や、週2回協力医療機関の看護師が来訪して利用者の健康管理を支援している。 受診結果は家族等に電話で報告するとともに、「個人ファイル」やユニット毎の「申し送りノート」に記載し、全職員で共有をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制をとっており、週1回の医師の往診、週2回の看護師の訪問、特変があった時など必要時は電話で報告している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働  利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はまめに面会に行き、状態把握をし、本人に回復を望んでいる事を伝え、活気づけて、不安が軽減するよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援  重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化した場合や終末期のあり方を話しあい、同意書や指針の説明をしている。ターミナルケアの方針やマニュアルも作ってある。	契約時に利用者や家族等に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を説明して同意を得ている。 事業所は利用者や家族等の希望があれば協力医療機関の医師や看護師と連携を図り、看取り介護を支援する方針となっている。 事業所は看取り介護の経験はないが、利用者が重度化した場合や、看取り介護に備えて職員の研修を実施するまでには至っていない。	前回の課題であった「重度化対応や看取り体制の構築」のための研修や話し合いが達成されていないので、引き続きその実現を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え  利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署、看護師指導のもと、救急救命、応急手当のやり方を学んでおり、急変時の手順などマニュアル化してある。		
35	13	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の指導のもと、入居者、職員、都合により自治会、民生委員、地域の方も参加し、年2回（4月、10月）避難訓練を行っている。	避難訓練は消防署立会いのもと地域住民の協力を得ながら年1回実施しているほか、事業所独自に夜間を想定した避難訓練を実施している。 避難訓練の実施状況や反省点、今後の課題などを話し合っって記録に残している。 災害に備えて乾パンやレトルトご飯、毛布、ガスボンベが備蓄されているが、飲料水は期限切れで最近廃棄し、まだ補充されていない。	災害に備えて早急に飲料水の補充が望まれる。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	玄関にプライバシー保護についての掲示物があり、排泄や入浴の声かけなどの対応にも配慮している。	管理者と職員は利用者の呼び方や言葉遣いなどに気を配り、利用者が言われたくないことを言わないように意識するなど、利用者一人ひとりの尊厳を大切に考えて支援をしている。 職員はトイレ誘導時に利用者に小声で声かけをするほか、トイレの扉を閉めて扉の外で待つなど、プライバシーに配慮した対応に努めている。 個人情報に関する書類は事務室の鍵のかかる書棚に保管し、情報漏洩に留意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の些細な会話から意向が聞き出せ、気持ちが読み取れるよう努め、本人に幾つかの提案をし自己決定して頂く事もある。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のリズム、ペースを感じとり、日々対応している。食事の時間、昼寝、その他もその方にあわせ日々対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望があれば、美容師にきて頂いており、又、洋服なども一緒に買いに行っている。日常も整容の声かけを心かけている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を一緒に買いに行ったり、誕生日には宅配の釜飯などを提供している。日常では、利用者と一緒に食事作りをし、味見もしてもらい、アドバイスをもらい、盛り付け、片付けなど分担し行っている。	宅配業者によるカロリー計算された献立の食材が届き、調理方法が記載された紙を見ながら、利用者と職員と一緒に調理をしている。利用者はできる範囲で野菜の皮むきなどの下準備や調理、テーブル拭き、後片付けなどの役割を担っている。利用者の咀嚼能力に応じてトロミを付けたり、ペースト状にしたり、刻み食にしたりするなど、利用者一人ひとりに配慮した食事を提供している。自家菜園で収穫した西瓜やブルーベリーなどを献立に取り入れているほか、誕生会には出前などを取り入れるとともに、手作りケーキで祝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算されたバランスの良いメニューで調理しており、食事量や水分量の少ない時は嗜好品などを購入し、摂取してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	長年の習慣で、毎食後口腔ケアされない方はうがいだけでもして頂き、毎食後口腔ケアの声かけをし、必要に応じ介助している。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表でパターンを知り、トイレ誘導している。又、パッドを使用されている方もトイレの声かけや誘導をし、パッド使用を減らすよう努めている。最近リハビリパンツ、ラバーシートを外した方が2人いる。	職員は排泄チェック表から利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミングを見計らってトイレ誘導を行い、トイレで排泄ができるよう支援をしているほか、パッドやリハビリパンツを使用して排泄の自立に向けた支援をしている。失敗した場合は周りに気付かれないようさりげなくトイレや風呂場に誘導し、利用者の自尊心を傷つけないように配慮をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに摂取してもらい、牛乳、漢方のお茶などもすすめている。排泄チェック表を作り排便チェックしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴希望回数などを聞き、できるだけ希望にこたえられるよう対応している。入浴拒否の方はご家族の協力を得て、ご自宅で入浴される事もある。	風呂は毎日沸かし、週2回を目安に入浴日を設けているが、利用者の状態や希望にそって入浴日や時間帯を変えたり、シャワー浴や足浴などで個々に応じた支援をしている。 入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、職員や時間帯を変えたり、風呂と言わず「散歩しましょうか」や利用者の興味のある話しをしながら風呂場へ誘導するなど、無理なく入浴ができるよう工夫をしている。 普段は入浴剤は使用していないが、冬至には「柚子湯」で季節感を味わっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースにあわせ、休息してもらっている。長時間椅子に座ったままの方には状況判断で声かけし、ソファやベッドでゆっくりして頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬ファイルを作り、職員全員が閲覧できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人にあった役割をみつけ、スタッフが感謝の言葉などを言い、役割が楽しく前向きにできるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日用品や洋服の買い物、ドライブ、お茶のみなどに行ったりしている。	天気の良い日には、利用者が事業所の駐車場や中庭で気軽に日光浴や外気にふれられるよう支援をしている。 季節の花を見物する外出を企画し、ドライブを兼ねながら近隣の筑波山に行って桜や梅、紅葉などを観賞するほか、北条町の祭り見物や近隣施設のコンサート鑑賞など、四季の移り変わりを肌で感じたり、気分転換ができるように支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が本人に小遣いを置いていく場合もあるが、希望があれば随時、本人に少額を渡している。買い物も希望時に一緒に行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホーム内の電話は希望時には自由に使ってもらっている。今、現在使用される人はいない。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各場所に家庭と同じ物品を置き、日の光が入る玄関には長椅子を置き、自由に過ごせるよう工夫している。又、室内の温度は利用者に合わせ設定している。	玄関には手指消毒薬を置き、衛生面に気を付けている。 居間兼食堂の中庭に出入りができる大きな窓からは採光が差し込み、換気や温度調節を行って快適に過ごせる環境となっている。 居間兼食堂にはテレビが配置されており、その脇にあるソファで利用者は寛げる環境となっている。 鴨居や壁には利用者と職員と一緒に制作した花紙や切り紙を飾り、季節感を醸し出している。 脱衣場は浴槽との温度差がないようエアコンで調整するとともに、転倒防止に壁に手摺を設置し、安心して入浴ができるように工夫をしている。 廊下にも手摺を設置し、利用者が安心して歩行ができるほか、幅が広いので車いすの利用者同士でも楽に擦れ違える環境となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファが置いてあり、のんびりと過ごせる空間作りをしている。玄関、中庭にも椅子、ベンチがあり、休息できるスペースがある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使いなれたタンス、家族の写真などを置き、居心地よく過ごせる環境になっている。	居室にはエアコンやベッド、クローゼットが備え付けられている。 利用者は家族等と相談しながら使い慣れた机や椅子、テレビ、鏡台、衣装ケース、化粧品、家族の写真など、思い思いの物品を持ち込み、居心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所への手すりや各場所名、居室の入り口には本人の名前のプレート、写真を貼って工夫している。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	1, ほぼ全ての利用者の ○ 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	1, ほぼ全ての利用者が ○ 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ全ての家族と ○ 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている <input type="radio"/> 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	1, ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームいちさと筑波

作成日 平成27年2月10日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	やむを得ず身体拘束をする場合には、同意書の他に経過観察記録や再検討記録を作成して記録に残す事を期待する。	定期的に検討でき、家族にもその旨を報告できる。	同意書の他に毎月のカンファレンスにて検討事項としてあげ再検討記録として残し、家族にも報告する。	実施中
2	11	管理者と職員が定期的話し合いや研修などが行える職員会議を実施する事を期待する。	毎月1回は必ずカンファレンスを実施する	長く話し合いの時間がとれない場合は、朝の申し送りなどの時間を活用し、話し合いをする。	実施中
3	23	利用者の思いや意向などを把握した内容を個人記録に残し、全職員で共有する事が望まれる。	利用者個々の思いを把握しその人らしい生活が送れるような支援ができる。	私の姿と気持ちシートを活用し、個々の思いを全職員で共有する。	即実施
4	33	前回の課題であった重度化対応や身取り体制の構築の為に研修や話し合いが達成されていないので、引き続きその実現を期待する。	重度化対応や身取り体制の為に話し合いを医療従事者と交えて行う。	主治医との連携を密にしその都度適切な指示を仰ぐ。見取り体制についても研修を行い職員の理解を深めるよう努力する。	H27年7月
5	35	災害に備えて早急に飲料水の補充が望まれる。	備蓄用の飲料水を準備する	飲料水を購入する	完了

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。